

### 栃木県での見聞から

栃木県のあるまちを訪れたとき、地図の上に「胞衣神社」という文字をみつけた。

胞衣といえば、出産に伴い母体からはがれ落ちてくる胎盤と羊膜なのであるが、これを冠した神社とはいかなるものか。少々気になったので現地を歩いて、ご近所でお話を伺ってみた。

そこは共同墓地の一角となっているが、注連縄を張った祠がある。聞けば、ここにはその地域の人々の胞衣が埋められていて、毎年6月に有志が集まってお参りをしているのだという。

### 公方公園の胞衣松

ところで胞衣といえば、古河公方公園に「胞衣松」と呼ばれる松がある。江戸時代の地誌『古河志』によれば、足利氏ゆかりの人物の胞衣を埋め、ここに松を植えたのではないかと。足利成氏が公方として古河にやってくる前の、鎌倉でもの



▲古河城観音寺曲輪で発見された胞衣容器

ろの儀礼を記したものを読んでみると、確かに子どもが産まれると、陰陽師に方位を見てもらって胞衣を埋め、その地に松を植えるのだと記されている。

わざわざその行為を記録するということは、おそらく足利氏の正式な作法であったことでしょう。

### 胞衣をどうしてきたのか

こうした作法について各地の事例をみると、踏まれたほうが

よいとって、主屋の軒下や入口の下に埋めるといふところもあれば、またその逆で踏まれないほうがよいとって、お産をした部屋の床下に埋めるといふところもある。このように、胞衣の処理は、時代や地域によってさまざまでした。

そんな身近な場所への埋納は、伝染病予防の観点から、法令によって規制され、各地で胞衣の処理業者が誕生することになる。古河でも、大正3(1914)年古河胞衣合名会社が設立され、それまで行われてきた「胞衣を密に床下又は住家の近傍に埋むる等非衛生の弊風」を廃絶する運動をしたといふのです。

### 端午に胞衣のお祭りをする

そういえば、10年ほど前、野木町のIさんから、胞衣を埋納していたという古河の胞衣埋け場について、お話を伺いました。垣根で囲まれたその一角は、西側に入口があり、真ん中に木造のちよっとした祠があったという。

昭和の初めぐらまで、5月5日になると、神官とともに古河の助産婦会20人ほどが、野道をぞろぞろと歩いて来てお祭りをしていったという。

胞衣は、いわばこの世へ生み出された子どもの分身のようなもの。端午の節供にお祭りなんて、きっとその分身は地下のあの世へ戻されながらも、子どもの健やかなる成長を見守っていく存在と信じられていたのでしょう。

胞衣は、最初に踏んだ者その子が恐れると言います。そのため、父親がまず踏んでおくのだという。親の威厳なんでもんは、こうして築かれたものかと…。

一方、私がちっとも裕福にならないのは、きつとよほどの大金持ちが踏んでいったに違いない。「糸の上初手金持がふんだらう」(『川柳評万句合』)

古河歴史博物館学芸員 立石尚之

### 【児童書/文学】 花見べんとう

二宮由紀子 作

今日はお花見にでかけるといふ春の日の朝。「こんにちは」とやってきたのは、卵焼き。トリのからあげや、ミートボールもやってきて…。

花見べんとうの中でくりひろげられる、ドタバタ大さわぎの落語ワールド。

出版社…文研出版

### 【絵本】

おはなみくまちゃん

シャーリー・パレントー 文  
桜が満開になりました。くまちゃんたちはお花見をすることに。バスケットを準備して、太鼓を叩き、凧を持って、お花見の始まりです！ 美しい色彩で、くまちゃんたちの愛らしいしぐさや表情を描いた、豊かな心を育てる絵本。

出版社…岩崎書店

## 図書館の本棚から



つつみ公民館

### 【一般書/小説】 青くて痛くて脆い

住野よる 著

僕が、秋好が残した嘘を、本当に変える。それは僕にとって、世間への叛逆を意味していた。青春の煌きと残酷さを痛烈に描ききった“喪失”のその先の物語。

出版社…KADOKAWA

### 【一般書/料理】

魔法のポリ袋レシピ

mako 著

ローストビーフ、オムレツ、ポテトサラダ…。ポリ袋に食材を入れてお湯でゆでるだけ！ 伝説の家政婦が、初心者でも簡単にできるセミ真空調理レシピを多数紹介します。日本テレビ系番組「沸騰ワード10」から生まれた本。

出版社…ワニブックス



提供：鈴木一雄氏

東磯部生活改善センターの敷地で行われていた盆踊り。写真が撮影された昭和30年代は、盆踊りに地域の人たちが集まり盛大に催されていました。この場所にたたずむ大日尊は今も昔と変わらず地域の人たちの生活を見守っているように見えます。

## 古河 今昔物語 Time Travel Photograph

